

## 第9回 千葉県地域連携の会 開催要項

- 1 目的 超高齢社会を迎え、医療需要急増への対応は喫緊の課題です。また、千葉県民が今まで以上に健康で質の高い生活を営めるよう、その環境を整える取り組みも必要となります。本会では、医療、介護、福祉、行政等の関係者が一堂に会して必要な対策を議論し、より一層効率的な医療提供体制を構築することを目指します。
- 2 テーマ 2025年に向けて
- 3 開催日 平成27年8月5日（水）
- 4 会場 千葉大学医学部附属病院 外来診療棟3階（千葉市中央区亥鼻1-8-1）  
\* 各分科会等の会場については、決定次第、下記ホームページにてご案内します。
- 5 主催 千葉大学医学部附属病院
- 6 参加 医療・介護・福祉・行政等関係者、当院教職員 約400名
- 7 申込み 7月24日（金）までに、下記ホームページ 又は ファクシミリによりお申込みください。  
\* 申込は先着順に受け付けます。申込多数のため参加をお断りする場合のみご連絡いたします。

千葉県地域連携の会 ホームページ

<http://www.clinical-design.org/>

千葉県地域連携の会

検索

8 参加費 無料

9 プログラム

**13:00～ 受付開始**

ご来場の際には、外来診療棟3階廊下に設置している **総合受付にて、受付をお願いいたします。**

**13:00～19:00 診療科等紹介ポスター展**

当院の各診療科・中央診療部門等をポスターでご紹介いたします。

**13:15～ 病院内見学ツアー**

当院内の主要な施設をご見学いただきます。

**14:00～15:50 第1部**

開会式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者あいさつ</li> <li>・ 来賓あいさつ</li> </ul>
全体会 これからの10年	<p>団塊の世代が後期高齢者となる2025年に、日本の人口は約5人に1人が75歳以上となりますが、その中でも特に千葉県は、高齢化率の上昇と高齢者人口の急増が見込まれています。人口構造の変化に伴い、医療・介護の需要が増加するほか、必要とされる医療機能も変わっていくことが想定されます。</p> <p>昨年「医療介護総合確保推進法」が成立し、病床機能報告制度や地域医療構想の策定など、医療提供体制の改革が進み始めた中で、2025年に日本及び千葉県はどのような状況になるのか、千葉県ではどのような姿を目指しているのかを提示します。</p>

<p>分科会 A          病院長懇談会          ～千葉市の病病連携・          病診連携を考える～</p>	<p>昨年成立した医療介護総合確保推進法により、各都道府県は二次医療圏等ごとに「地域医療構想（以下、ビジョン）」を策定し、併せて「地域医療構想調整会議（以下、調整会議）」を設置することとされました。ビジョンは地域の医療提供体制の将来目指すべき姿を示すものであり、その策定や実現に向けた各医療機関同士の協議は、調整会議の場で行われることとなります。</p> <p>地域において効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するためには、各医療機関が地域における位置づけを明確にし、機能分化や連携を推進していくことが重要です。本会では千葉市内の病院長や医師会等の関係者による意見交換を通じて、千葉市内におけるそれぞれの役割や連携に向けた課題の明確化、共有化を図るとともに、今後、各地域で行われる調整会議のパイロットスタディとなることを目指します。</p> <p>※ 本分科会は、当院が別途招待した方々による意見交換となります。それ以外の皆様は傍聴のみとなりますので、ご了承ください。</p>
<p>分科会 B          先進的医療の紹介</p>	<p>千葉大学医学部附属病院では対応が難しい疾患や技術的な難易度が高い診断や治療への対応、医療の均てん化に積極的に取り組んでいます。これら取り組みについて地域の皆様により具体的に知っていただく機会として、「先進的医療の紹介」という分科会を企画しました。</p> <p>本年度は「頭頸部がんに対する先進医療（耳鼻咽喉・頭頸部外科）」「感染症の地域連携 サーベイランスから国際的に問題になる感染症まで」（感染症管理治療部）、「ダヴィンチ補助下腎部分切除術」（泌尿器科）、を取り上げます。</p>
<p>分科会 C          在宅向け高度医療等の紹介</p>	<p>高度先進機器を使用しながらの在宅での長期療養をあらゆる職種にとってわかりやすく紹介します。病院医療から在宅での療養へ移行することが QOL や ADL の維持や向上に役立つという立場から、今回は、補助人工心臓（VAD:ventricular assist device）治療と局所陰圧閉鎖療法（NPWT:Negative pressure wound therapy）を取り上げます。VAD 治療については、長期生存率の改善により、在宅での管理の必要性が高まっています。NPWT は、外来で使用可能な創傷治療システムが導入され、今後、在宅療養においても効果を発揮することが期待されています。在宅でこれらの機器を使いこなすには、病院と地域の連携が欠かせません。病院と地域の医療機関や事業所の役割を整理するとともに、必要な資源の確保について考えます。</p>
<p>高校生向けプログラム          千葉県内で働く医療者          になろう！</p>	<p>千葉県内に在学又は在住する高校生を対象として、医療職の仕事内容やその魅力を伝え、将来の職業として医療職を希望するきっかけとしてもらうことがプログラムの目的です。</p> <p>メインコーナーでは、先輩の医療系学生や新人職員から、各職種の魅力や職務内容、その職業を目指すための道筋などを語ってもらいます。また、当院職員より県内の医療の現状や将来についての紹介や、千葉県庁の担当課より医療職を目指す上での支援制度の紹介など、盛りだくさんの内容です。座談会コーナーでは、先輩の学生や新人職員に質問できる機会もありますので、ぜひ色々な職種を知る機会にして下さい！</p>



## 17:30~18:30 情報交換会

軽食を用意しているほか、参加施設等による自施設紹介の時間を設けております。(発表を希望される場合には、事前に事務局までお知らせください。)

ご参加の皆様の情報交換にご活用いただき、施設間連携の促進の一助としていただきたいと思います。なお、参加に当たって事前申し込みは不要です。

## 18:30~20:00 第3部

<b>分科会D</b> 千葉大糖尿病コンプライケーションセンターを通じた地域医療連携	<p>現在、わが国の糖尿病患者数は900万人を超え、50歳以上の4人に一人が糖尿病に罹患するとされます。糖尿病患者の多くは、数年以上の罹病期間を経て、網膜症、腎症、神経障害、心筋梗塞、脳梗塞等の慢性合併症を生じ、種々の機能障害や死の不安に直面します。合併症の増加は患者の生命予後や生活の質を脅かすのみならず、我が国の医療経済をも揺るがす問題ですが、逆に合併症さえ制圧できれば、糖尿病は決して恐るべき病ではありません。</p> <p>このような状況の中、当院では、糖尿病の“合併症”に焦点を置き、その予防と治療を有効に実現するため、2014年7月より日本の大学病院として初めて「糖尿病コンプライケーションセンター」を新設しました。同センターでは、糖尿病内科と腎臓内科、眼科が隣接して診療スペースを構え、シームレスな合併症評価と治療を行うほか、神経内科や皮膚科、循環器内科、整形外科が診療に参加、さらに看護師や管理栄養士もセンター内で外来を受け持つなど、多診療科・多職種連携による包括的な診療と予防指導を実践しています。</p> <p>本会では足潰瘍や壊疽の発生を予防し、下肢切断を回避するために行っているフットケア外来の具体的な内容の紹介や、増加の一途を辿っている高齢者糖尿病に対する我々のアプローチ方法など、糖尿病コンプライケーションセンターのこの1年間の活動を報告するとともに、今後のセンターを通じた地域医療連携に関してディスカッションをさせていただきます。</p>
<b>分科会E</b> 千葉市の地域医療連携を考える	<p>地域医療連携の推進に向けて、千葉市内各地で現在、関係者による顔の見える関係づくりのための取り組みが進められています。しかしながら、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築を進める上では、関係者の役割分担をより明確にし、個別のネットワークを超えた市全体のネットワークが必要となるのではないのでしょうか。本分科会では、医療機関の連携担当者を対象に、そのようなネットワークを構築する意味や目的の共有を図るとともに、課題等について議論を行います。</p> <p>※ 本分科会への参加は、当院が別途招待した方々のみとなります。それ以外の皆様は傍聴のみとなりますので、ご了承ください。</p>
<b>分科会F</b> 脳卒中パスと連携	<p>2部構成とし、第1部では千葉県救急医療センターの古口徳雄先生より、「千葉県共用脳卒中地域医療連携パス」(以下、CAMP-S)の現況と事務手続き上の注意点に関してご講演いただきます。本県のCAMP-Sは毎年1,000名以上の患者さんに新規発行され、全国的に誇れる連携システムを作り上げています。平成26年4月に改訂され、各シートの見直しにより実効性の高いものとなりました。</p> <p>第2部では、本年7月に開設される千葉大学病院包括的脳卒中センターと地域医療連携にスポットを当てます。特に周産期、小児、血液疾患、膠原病など特殊疾患に対する脳卒中医療連携に関し、現状と対策を議論したいと思います。</p>